

新型コロナウイルス感染症の流行が肺癌患者の診断時の病期に与えた影響に関する後ろ向き観察研究

研究へのご協力をお願い

当院では、最新の(最善の)医療を患者さんに提供するとともに、より良い治療法や診断法などを開発するための臨床研究を行っています。患者さんに参加していただいて、治療方法や診断方法が有効であるか、あるいは安全であるかを調べることを臨床研究といいます。

研究の背景

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が2020年初頭から日本で流行し始め、これに伴う医療圧迫で様々な診療制限が生じています。この診療制限は、これまで優先的に扱われてきたがん診療でも例外ではありません。すでに新規がん患者の診断の遅延やがん患者の治療日程の変更といった影響が生じていることが報告されています。

本研究は、COVID-19の流行前後で新規肺癌患者の診断時の病期に変化が生じたかを調査するためにを行います。

本研究について

この研究は、2019年1月から2021年3月までに肺癌の診断、治療目的に当院呼吸器内科および呼吸器外科を受診した患者さんを対象とします。対象となる患者さんの臨床所見、検査データを収集し、COVID-19の流行前後における肺癌と診断した時点での病期の差、およびこれに関係する因子を調査します。過去のデータを収集するため、本研究に参加することで新たに治療・検査が追加されることはありません。

この研究で得られた情報により、COVID-19流行が肺癌の診療に与えた影響を明らかにすることが期待されます。

研究の参加はあなたの自由意志を尊重します

「ご自身のデータを使用されたくない」と思われたときには、あなたのデータを除外しますので以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

プライバシーの保護について

この研究で得られた情報は、医学雑誌などで公表されることがありますが、お名前や個人的な情報は一切わからないようにいたします。また研究中のデータに関しても、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

お問い合わせ先について

この研究についてわからないことや、聞きたいこと、またなにかご心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく担当医師におたずねください。

また、病気や怪我などで他の治療を受ける時、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたいときにも、担当医師までご連絡ください。なお、この研究に参加している方の個人情報や、研究の知的財産などには、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【お問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 呼吸器内科

〒612-8555

京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1

TEL: 075-641-9161

研究責任者:呼吸器内科 医師 金井 修